

平成28年度林業普及指導事業の活動報告

目次

(1) 平成28年度林業普及活動トピックス	2
① 主伐促進に向けての取り組みと課題	2
② 林業担い手育成の取り組み ～みえ森林・林業アカデミー（仮称）の開講に向けて～	3
③ 自伐林家等の意欲向上に向けた取り組み ～木の駅プロジェクト等による未利用間伐材の利用促進～	4
④ 木育・森林環境教育による県産材利用へ向けた取り組み	5
(2) 地域の課題に対応した活動	6
① 四日市地域	6
② 津地域	6
③ 松阪地域	6
④ 伊勢地域	6
⑤ 伊賀地域	6
⑥ 尾鷲地域	7
⑦ 熊野地域	7
(3) 県産材の需要及び供給の拡大	7
① 公共施設等への県産材の利用促進	7
② 伐採木のカスケード利用の促進	8
③ 主伐及び再造林の推進（低コスト造林・保育作業の普及）	9
④ 木材生産のコスト低減に資する作業（伐採・搬出）システムの普及	9
(4) 森林整備の推進	9
① 市町村森林整備計画に係る市町への支援・指導	9
② 森林経営計画及び集約施業に係る支援・指導	10
(5) 担い手・後継者の育成確保	10
① 林業教室の開催	10
② 担い手等に対する育成研修等	11
③ 新たな担い手の確保と育成	12
④ 林研グループ等の支援	14
(6) 森林環境教育等	15
① 森林環境教育等の支援	15
② 森林関係イベント開催支援	16
③ 多様な主体が行う森林作業の支援・技術指導	16
(7) その他の活動	18

(1) 平成28年度林業普及活動トピックス

① 主伐促進に向けての取り組みと課題

「もうかる林業」の実現のためには、担い手の育成、県産材の利用促進、需要拡大などとあわせ、素材生産量の増大や木材の安定供給体制を構築し、林業の活性化を図る必要がある。

林業が活性化することで、若者やU・Iターン者などの働く場を創出し、山村地域のコミュニティの活性化も期待できる。

「みえ県民力ビジョン」では林業活性化の為、県産材（スギ・ヒノキ）の素材生産量を、現状値の315千 m^3 （平成26年度）から、目標値426千 m^3 （平成31年度）とすることを県民指標として掲げている。

この県民指標を達成するためには、従来の間伐中心の素材生産だけでは困難であることから、条件が許す限り主伐を促進することとしている。

このためこの1年、主に川上側に対して主伐を促進するための様々な取組を行ってきた。

【取り組み】の一例

- <意識改革> 森林所有者への働きかけ、事業者・市町職員への働きかけ、情報共有
- <機械の普及> 各種機械研修の開催
- <再造林の推進> 低コスト造林事業のPR等
- <苗木の普及> コンテナ苗の植栽試験、生育状況調査等
- <伐植一貫施業の推進> 伐採事業者・森林組合への働きかけ
- <自伐支援> 研修会の開催

しかし、直ちに成果に結びつくものは少なく、また、それぞれの課題も見つかった。

【課題】の一例

- <意識改革> 皆伐再造林の実績データが乏しいため、実際の収支を交えての説明が出来なかった。
- <機械の普及> 機械の導入に伴い、メンテナンス経費が増大している。
- <再造林の推進> 低コスト造林事業予算の縮小、獣害による影響
- <伐植一貫施業の推進> 費用分担の整理やスケジュール調整等に労力が掛かることがわかってきた。
- <自伐支援> 予算が縮小する中、コンスタントに研修会を開催する為には直営で研修会を開催する必要があるが、普及員の技術力が不足している。

これらの課題を解決するため、今後は以下の取組を重点的に行っていきたい。

【今後の取組】の一例

- <意識改革> 皆伐再造林の実績データを収集し、どういった場合に採算が取れるのかを具体的に説明できるようにする。
- <機械等の普及> 生産システムを踏まえたコストシミュレーションの実施と提供、メンテナンス講習会の継続開催、等
- <再造林の課題> 優良事例の情報提供、獣害対策に対する知識・情報の提供
- <伐植一貫施業> 林業研究所と連携したコスト分析を実施し、その結果を一貫施業を検討する際の材料としてもらうよう情報提供を行う。
- <自伐支援> 普及員自らが講師となって研修会を開催できるよう、技術習得を目指す。

② 林業担い手育成の取り組み ～みえ森林・林業アカデミー（仮称）の開講に向けて～

○森林・林業を取り巻く状況と林業人材

県内の人工造林地では、多くの森林資源が伐採可能期に達しているが、木材価格の低迷等により林業が停滞し、豊かな森林資源が十分に活用されていない状況にある。一方、木質バイオマス発電所の稼働や合板工場の進出決定など、県内における木材需要の増大が見込まれ、森林が多くを占める中山間地域では、働く場を創出する重要な産業となりうる林業に対する期待が高まっている。

これらの木材需要に応えるとともに、林業を核として中山間地域を活性化していくためには、安全かつ効率的な木材生産を担う人材のほか、森林の持つ公益的機能を高度に発揮しながら持続的に木材生産を行える森林管理を担う人材、さらには地域資源を生かした新たな地域ビジネス創出など、多様な森林・林業経営を担う人材が必要となっている。

県では、これからの中山間地域を担う林業人材を育成するための機関「みえ森林・林業アカデミー（仮称）」の平成30年度開講を目指して検討を進めている。

○林業担い手育成に関わる林業普及指導員の取り組み

人材育成研修の実施手法の検討やニーズ把握を目的として、新たな活動（新）に取り組むとともに、既存の活動（既）においても、人材育成機関の設置に向けた課題の把握という視点で取り組んだ。

1. 若手現場技能者の意見交換会（新）

津・松阪・伊勢の3事務所の林業普及指導員が管内の枠を超え、若手現場技能者の意見交換会を開催した。この意見交換会では、林業の担い手として重要な役割を担うことが期待される若手現場技能者たちが、他組織の人たちと互いに学びあうことで、自らの行動に変化を起こすことを期待した。

参加者からは、他の事業体の取り組みがわかって良かった、危険について改めて認識することができた等、こういった意見交換の場を歓迎する意見が多く、一定の成果があったと考えられる。

一方で、ワークショップ形式での会議の進行については、林業普及指導員の技術を向上させることが課題としてあげられる。また、参加者のその後のフォローも必要と考えている。

2. 林業講座「もりびと塾」（新）

未就業者が森林・林業の基礎知識や技術を学び、林業への就業を目指すことを目的とした<林業体験コース>と、既就業者が森林・林業に関するより深い知識や起業・地域づくりなどの新たな視点を学び、地域の指導者としてステップアップすることを目的とした<林業リーダー育成コース>の2コースを開講した。

林業体験コースでは、林業会社への就職や自ら起業する受講生が出るなどの成果があった。林業リーダー育成コースでは自身の考え方に影響があったと回答する受講生が多く、地域での研修会を開催するなど新たな行動を起こす受講生も生まれた。

受講生の確保、魅力ある講師選定、研修の手法、開催時期や期間の検討等、多くの課題がある。

1. 高校生林業職場体験研修（既）

研修を受講した高校生に対し、林業講座「もりびと塾」等に関するアンケート調査を実施した。次代の担い手となる高校生を林業への就業へとつなげるためには、講座の会場や日程を検討し、受講しやすくすることで、林業職場の魅力伝えていく必要がある。

2. みえチェーンソー技術競技大会（既）

林業普及指導員が大会の企画会議や競技審判などを支援し、大会当日は、多くの来場者に現場技術の魅力を発信することができた。ただ、今年度は林業死亡労働災害多発警報が発令されたことから、林業現場での安全確保は喫緊の課題であり、この大会も「安全作業」のための技術競技大会という意識付けを徹底する必要がある。

3. フォレストワーカー研修（既）

林業普及指導員が研修の講師を務めた。現場と知識の両方を身につけた技術者を目指すものであるが、受講生の知識に差がある中での講義の進め方や、研修効果の検証が今後の課題としてあげられる。

4. 豊かな森と地域を担う人づくり検討会

地域の林業・木材事業者や県内外の学識経験者等で構成する検討会を開催し、森林・林業のあるべき姿や、その実現に必要な人材像等を定めた「三重県林業人材育成方針」を策定した。

③ 自伐林家等の意欲向上に向けた取り組み ～木の駅プロジェクト等による未利用間伐材の利用促進～

森林の適切な管理や素材生産量の増加などを図るため、森林組合などによる集約化施業、路網整備や機械化の推進等と並行して、担い手の確保、山村地域の活性化や生活基盤の整備などの観点から、森林所有者等による自伐型林業を促進していく必要がある。

自伐型林業を進めていくためには、森林の現状把握、木材の評価に関する知識や伐採・搬出等の技術の向上を図っていく必要があり、これらに対応するため、各地で研修会の開催等による活動を行った。

◆研修会等の開催

【概要】

- ・「森の健康診断」手法の習得に関する研修（1回、参加者12名）
- ・木材の経済価値の評価方法の習得に関する研修（1回、参加者10名）
- ・チェーンソーのメンテナンス、伐採、造材や搬出に関する研修（9回、参加者104人）
- ・自伐型林業に関する講演会（1回、41人）

合計12回の研修会等を開催し、述べ167人の森林所有者等が参加した。

これらの研修会は、林業普及指導員が企画立案し、直営や委託などにより実施した。

【アンケート結果の概要】

- ・参加者の年齢構成は、3/4が50代以上であった
- ・自伐林業の実践は、「実践していない」が最も多く約半数であった
- ・森林整備等の意欲は、「とても向上した」が約40%、「ある程度向上した」が約45%、合わせて約85%の参加者で意欲が向上した

こうした活動により、自伐林家等の意欲向上が図られたほか、林業研究グループへ自伐型林業グループへの転換の働きかけによる機運の高まりや自伐林家等がより活動しやすくなるよう搬出機材の整備を市町へ働きかけし、ポータブルウインチなどが導入された。

また、自伐林家等の意欲向上の継続には、収入が気軽に得られる仕組みが必要で、特に未利用間伐材等の集荷（木の駅プロジェクト等）の取り組みが進んでいない地域では、こうした取り組みを進めていく必要がある。このため、地域でのニーズなどを把握するため、森林所有者等へ意向調査を実施した。

【アンケート結果の概要】

- ・木の駅プロジェクトの認知度は低く、「知らない」が約70%であった
- ・地域での取り組みに関して、実施を希望している者は約90%で非常に多かった
- ・取り組みが実施された場合の出荷意向は約60%であり、相当数存在する

木の駅プロジェクトに参加したいが、伐採や搬出技術に不安があったり、取り組みに必要な書類が作れないといった意見も多く聞かれたため、仕組みの理解向上を図ることと併せ、前述の不安要素を取り除く活動として、各地で木の駅プロジェクトの勉強会や仕組みの体験会を実施した。（5回）

アンケート結果や勉強会等の開催を基に、市町へ働きかけを行った結果、2市町で木の駅プロジェクト等の実施に向け、本格的に検討していくことで合意が得られた。

今後は、自伐林家等のスキルアップに関する支援の継続や未利用間伐材等の集荷体制を各地に広げていくことで、自伐林家の意欲向上を図るとともに、新たな担い手の確保として、農家などによる兼業林業の推進や特用林産物などの生産と併せた素材生産の取り組みなどを進めていきたい。

④ 木育・森林環境教育による県産材利用へ向けた取り組み

○これまでの取組と背景

林業普及指導員として、これまでも「企業の森」活動や、「みえ出前トーク」などを通じて、一般県民に対して森林や林業の現状を知り地域材を利用することへの理解を深めるための普及活動を行ってきた。また、平成26年に「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めることを目的に「みえ森と緑の県民税」が導入され、森を育む人づくりを進めていくため、県内各地で「森林環境教育」や「木育」に関する取組が行われるようになった。

○「木育」に取り組む意義

このような中で、「子どもから大人までを対象に、木材や木製品とのふれあいを通じて木への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学ぶための教育活動である（「平成26年度森林・林業白書」より抜粋）。」とされる「木育」に着目し、川下地域で生活するエンドユーザーをターゲットに、様々な主体と協力して「木育」に関するイベントの開催や、「木育」に関わる木製品の開発の支援をした。

○取組内容

<事例①>「木育講座」の開催

小学校のPTA行事や学童保育所及び児童館の夏休みイベントとして「木育講座」を開催し、約340人の園児や児童及びその保護者が「木育」に対する勉強会に参加したり、丸太切りや木製遊具の体験をした。そ様子市町の森林林業関係部署や教育委員会、子育て関連の部署などに紹介した結果、子育て支援センター等への「もりボール」の導入や、診療所への木製キッズスペースの設置が新たに計画された。

<事例②>林福連携による木製遊具の開発

専門家の協力を得ながら、高校生がデザインし、福祉施設で加工製造した木材を使用した木製遊具の開発の支援をした。こうして製造された木製遊具は、来年度より子育て支援センターや子育てサロンに設置され、乳幼児健診や各種イベントで使用されることになった。

○取組成果と課題

「木育」をツールとしたイベントに親子連れをはじめたくさんの県民に木材に触れ、木材について学ぶ機会を提供することができた。そして、来場者から直接、県産材利用に関する意見や要望を聞くことができ、特に子育て世代の女性や教育関係者の間で「木育」に対する関心が高いことを知ることができた。今後、これらのニーズを分析して、消費者のニーズを素材生産や木材製造の現場にフィードバックしていく必要がある。

一方で、「木育」に関する取り組みは日が浅く、今後のこのような活動を展開していくためにも、指導者の育成が必要と感じた。

また、従来の林業・木材産業の関係者だけでなく、学生や福祉施設及び地元中小企業といった多様な主体と協働で製品開発をすることは、利害関係者間の調整に多くの労力を要したが、これまで県産材利用にあまり積極的ではなかった地域への利用拡大につながった。また、福祉施設と連携することで、新たな雇用を創出することにもつながった。

今年度は、こういった取り組みに市町職員にも参加を呼びかけ、イベントの様子を伝えるのと同時に県産材のPRをすることで、公共施設等への木製遊具の購入へと結びつけることができた。今後は、市町の公共施設等の管理部局へもPRを行い、公共施設等の木造化・木質化へとつなげていく必要があると感じた。

(2) 地域の課題に対応した活動

各地域の実情に応じた課題に対応するため、各種の活動を展開した。

① 四日市地域

【課題】

森林・林業に対する意識が低く、同時に地域材利用についても認識が低いため、「みえ前トーク」などにより一般県民の森林整備や地域材利用の意義を伝える。

【対応結果】

「みえ出前トーク」や木育講座を児童館や小学校で開催し、幼児から小学生の親子、児童館等職員 339 人に対して森林整備や地域材利用の意義を伝えた。これらの取り組みにより、児童館等で地域材を使用した木製玩具の購入やキッズスペースの設置・計画につながった。

② 津地域

【課題】

伐期齢に達した林分が増加するなか、林業として循環（主伐～再造林）を進めるためには、適切な獣害対策とコスト低減が必要となる。

【対応結果】

市内において、植栽時期を限定されないコンテナ苗（林業研究所の育苗苗）の試験地設定を行った。今後、生育状況等を検証し、地域での普及啓発を図る。また、市内の新植地において、シカの行動調査・捕獲について関係機関と連携し取り組んでおり、調査・捕獲結果等を踏まえて、今後のシカ被害減少へ向けた取組を支援する。

③ 松阪地域

【課題】

素材の流通が円滑に進むように体制づくりを急ぐ必要がある。

【対応結果】

中間土場の設置や、流通コーディネート機能の充実について関係者と協議を行ったが、場所の選定、キーマン、整備費用などの課題が明らかとなった。今年度は成果が得られなかったが、引き続き関係市町と連携をとりながら検討していきたい。

④ 伊勢地域

【課題】

- ・素材生産量拡大のため、搬出間伐の増加や皆伐を促進する必要がある。また、皆伐後は確実な更新を図るため、作業の低コスト化を進めていく必要がある。
- ・森林所有者の森林管理への関心を回復するため、気軽に取り組める自伐型林業を促進する必要がある。

【対応結果】

- ・市町や森林組合に呼びかけ検討会を開催し、皆伐の促進等について議論し理解を深めた。
- ・管内市町との木の駅プロジェクトの実施に関する検討、森林所有者等を対象にしたアンケート調査や研修会などを実施した。その結果、度会町において、木の駅プロジェクトの実現に向け、本格的に検討していくことで合意が得られた。

⑤ 伊賀地域

【課題】

- ・管内にある原木市場への原木取扱量の低迷による経営不振
- ・未利用間伐材の木質バイオマスへの利用量の不振
- ・管内における素材生産量の増大
- ・ナラ枯れ被害の深刻化

【対応結果】

- ・ 林業事業者等への原木市場への出荷量の増大を積極的に働きかけた。減少傾向であった出材量は下げ止まりとなり、例年並みの出材量が確保できる見込みである。
- ・ 未利用間伐材の出材について各関係者に働きかけた。その結果、未利用間伐材の有効利用についての関係者の意識が高まり、昨年並みの出材量が確保できる見込みとなった。
- ・ 主伐等に取り組む事業者への素材生産の拡大を働きかけると共に造林事業（低コスト造林）等の情報提供を行った。その結果、1事業者が低コスト造林に取り組むこととなった。
- ・ ナラ枯れの被害状況については、昨年度に引き続き被害箇所の調査を行うと共に各関係者への情報提供と一般住民からの問い合わせについて対応した。

⑥ 尾鷲地域

【課題】

尾鷲ヒノキの皆伐が盛んであるため、今後、造林未植栽地の増加が懸念される。

【対応結果】

架線集材実施箇所では、獣害防止柵を同時に運ぶことが行われるようになってきている。管内では、チューブ苗による植栽が盛んであるため、苗木の運搬植栽も同時に施工できないか、一貫作業について意見交換会を開催した。現状では、伐採業者と造林業者の連携ができておらず実行が難しいところであるが、造林の低コスト化および植栽の一貫作業についての問題点についての共通認識を持たせた。

⑦ 熊野地域

【課題】

林業従事者の後継者が不足しているため、職業選択のひとつとして林業が出てくるように、農業などとも連携して森林・林業をより身近に感じられる事を意識して活動を実施する。

【対応結果】

熊野材推進協議会主催の熊野サミット 2016（参加者約 100 人）を後援し、林業のみならず地域で活動している団体や熊野地域をフィールドとして活動している各大学との接点があった。その1つとして学童保育の団体から子ども向けの森林・林業に関わる活動ができないか相談があり、団体が管理している農場において、きのこの栽培や森林づくりの実施に向けて協議をしている。

(3) 県産材の需要及び供給の拡大

① 公共施設等への県産材の利用促進

県産材の需要拡大に向けて、公共施設等における県産材利用の働きかけを行った。

- 福祉施設と応用デザイン科の高校生及び鈴鹿市と連携して、専門家のアドバイスの元、新生児用木製遊具の開発に取り組み、開発された木製遊具が、来年度より鈴鹿市子育て支援センター等に導入される計画ととった。【四日市】
- 川越町における県産材を利用した公共施設の木質化及び備品の購入について現地検討会を開催し、来年度に新たに公共施設等へ木製品の備品が導入される計画となった。(川越中学校等川越庁内の公共施設6か所・1回(6月24日)・川越町職員11人)【四日市】
- 市町に対して公共施設の木質化への働きかけを行い、桑名市の子育て支援施設等に木製遊具が導入されることが計画された。(7回：桑名市(2回)、いなべ市(2回)、四日市市(1回)、亀山市(1回)、鈴鹿市(1回))【四日市】
- 「企業の森」活動企業に対し、事例集を使って県内の木造建築物の紹介と木材の利用について検討していただくよう働きかけをおこなった。結果として木材の使用には至らなかったが、一定の関心は得られたと思われる。(3企業)【松阪】(1企業)【伊勢】
- 市の公共施設等を担当する部署に関連する情報の提供を行った。(伊賀市、名張市、各1回、2人)【伊賀】
- 公共建築物等木材利用促進法について2市及び事業者へ情報提供等を行った。(伊賀市、名張市、事業者、

2回、5人)【伊賀】

- 伊賀鉄道の車両の木質化に関する情報提供等を行った。その結果、1編成2両の内装の木質化が実現した。(伊賀鉄道本社 4回、12人)【伊賀】
- 事務所の入口に製材所から無償提供を受けたスギ・ヒノキの端材を置き、事務所への来客も含め、自由に持ち帰ることができるようにした。【熊野】
- 「三重の木」認証制度に関する現状や課題を把握するため、森林・林業経営課木材利用推進班と連携して事業者を訪問し、聞き取り調査を行った。この結果、課題等が明らかとなってきたことから、これらを踏まえつつ制度改正に向けて動くこととなった。(46事業者)【全庁】

② 伐採木のカスケード利用の促進

県産材の供給量を拡大するには、A材以外の原木供給の拡大も重要であることから、B材やC材の供給量を拡大するための各種活動を展開した。

- 県産材の輸出に関して、これまで輸出していたC材に加え、B材輸出に向けた助言を行った。(林業事業体・1回・2人)【四日市】
- 公共事業(緑地整備)により発生する木材の木質バイオマス発電用チップ利用について指導した。(いなべ市・1回・4人)【四日市】
- 津市におけるバイオマス出荷支援の取組(トラックスケール導入、ポータブルウインチ導入)、地域での循環した供給体制について支援した。その結果、出荷量が27t(H27)から400t(H28)に大幅に増加した。【津市】
- 木の駅プロジェクトを管内に広げるため、町への意向確認(度会町・大紀町・南伊勢町)したところ、度会町で関心を示したが、出荷者の確保に不安を抱いていたため、森林所有者に対するアンケート調査を実施(森林所有者、2回)した。この結果、多くの者が木の駅プロジェクトの実現を望んでいるうえ、原木出荷意向が高いことが判明した。また、木の駅プロジェクトの理解を深めるため、講義や研修会を開催した(度会町、2回)。これらの取り組みの結果、度会町において、木の駅プロジェクトの実現に向け、本格的に検討していくことで合意が得られた。【伊勢】
- 持続可能な木質バイオマスの供給等に関する会議の支援を行った。その結果、次年度以降、流通コーディネート機能の充実に向けて検討会を開催していくこととなった。(多気町、3回)【伊勢、松阪】
- 木質チップ生産者及び市担当者へ木質バイオマス関連の情報提供を行った。(伊賀市、名張市、事業者、16回)【伊賀】
- 大型合板工場の県内進出に対応するため、林業事業体等に対し、追加的にB材出荷量を純増させるよう働きかけた。(林業事業体等14社)【全庁】

大型合板工場の県内進出に対応した、林業事業体等への働きかけ状況

事務所	対象事業者及びその数	活動日
四日市	林業事業体1社、原木市場1社	4/25、6/7
津	林業事業体1社、原木市場1社	4/25、6/7
松阪	林業事業体3社、原木市場1社	4/26、6/8
伊勢	林業事業体1社	4/26
伊賀	林業事業体1社、原木市場1社	4/25、6/8
尾鷲	原木市場1社	6/7
熊野	林業事業体1社、原木市場1社	4/27、6/7

③ 主伐及び再造林の推進（低コスト造林・保育作業の普及）

県産材の供給量を拡大するには、搬出間伐に加えて主伐を促進するとともに再造林も併せて実施する必要があることから、主伐促進に向けた働きかけや低コスト造林の普及に努めた。

- 森林組合に対して主伐・再造林のモデル施業地の設置に向けて検討をしたが、実現には至らなかった。（森林組合・2回・2人）【四日市】
- 主伐・再造林の推進及び低コスト造林事業について造林説明会にて林業事業者及び市町担当職員に指導した。（県四日市庁舎・1回・12人）【四日市】
- 森林組合担当者と共に、大紀町の種苗会社を訪問し、苗木生産の方法について研修を受けた。（大紀町・1回・3人）その結果、次年度以降、苗木の生産について検討することとなった。【松阪】
- 森林組合地区説明会において、森林所有者に対し主伐の促進と低コスト造林事業の説明を行った。（松阪市内・4回・55人、大台町内・2回・40人）
- いせしま地域と大紀地域に分け、それぞれ皆伐や低コスト造林に関する意見交換会を実施し、皆伐や低コスト造林への取り組みの拡大を図った。（いせしま森林組合会議室：1回（8人）、大紀森林組合会議室：1回（9人））【伊勢】
- 伊賀地域素材生産量拡大促進WGを伊賀庁舎で開催した。（伊賀市、名張市、事業者、1回、7人）【伊賀】
- 林業事業者等に働きかけることにより、伊賀地域において久しくされていなかった主伐が行われ、地元苗木生産者の苗木を使った低コスト造林事業が実施された。（1地区）【伊賀】

④ 木材生産のコスト低減に資する作業（伐採・搬出）システムの普及

県産材の供給量を拡大するためには、低コストで木材を生産するシステムの普及が欠かせないことから、研修会を開催するなどシステムの普及を図った。

- 松阪飯南森林組合が平成27年度に導入したタワーヤードの現地研修会を開催した。その結果、県内各地から林業事業者を中心に68人の参加があった。（松阪市飯高町・1回・68人）【松阪】
- 大台町において、ドローンを用いた架線の架設研修会を開催した。その結果、大台町内の林業事業者を中心に20人の参加者があり、関心の高さをうかがうことができた。（大台町・1回・20人）【松阪】
- 一貫作業システムについての説明会を実施し、今後のシステム普及の課題等について共通認識を持たせた。（尾鷲市・1回・7人）【尾鷲】
- 路網整備に取り組む事業者への情報提供及び技術等の支援を行った。（伊賀市内、3回、6人）【伊賀】

（4）森林整備の推進

① 市町村森林整備計画に係る市町への支援・指導

市町の担当者に対して、市町村森林整備計画の樹立や変更にあたっての作成を支援した。（24市町、48回以上）

概要	対象	活動日
市町村森林整備計画の変更に伴う指導をした。	菰野町	1/12（1回）
	朝日町	1/12、2/6（2回）
	いなべ市	1/12、2/14（2回）
	亀山市	1/12（1回）
	桑名市	1/12（1回）
	鈴鹿市	1/12、2/8（2回）
	四日市市	1/12、2/2（2回）
	東員町	2/10（1回）
	松阪市	11/15、1/24（2回）
	大台町	1/18（1回）
	伊勢市	1/20、1/26（2回）

	鳥羽市	1/19、1/20 (2回)
	志摩市	1/20、1/26、1/30 (3回)
	玉城町	1/19 (1回)
	度会町	1/12、1/19、1/20 (3回)
	大紀町	1/12、1/13、1/20、1/26 (4回)
	南伊勢町	1/20、1/25 (2回)
	伊賀市	10/31、2/10 (2回)
	名張市	10/26 (1回)
	尾鷲市	11/16、1/23、1/24、2/3、2/8 (5回)
	紀北町	11/16、1/31、2/22 (3回)
	熊野市	随時 (2回以上)
	御浜町	随時 (2回以上)
	紀宝町	随時 (2回以上)

② 森林経営計画及び集約施業に係る支援・指導

森林経営計画の作成や施業集約化について林業事業者や森林所有者を支援したほか、認定業務に従事する市町担当者を支援した。(7市町、14事業者、25回以上)

事務所	概要	対象	活動日
四日市	森林経営計画の変更について指導した。	1事業者	4/25、6/16 (2回)
津	属人計画の作成を支援した。	津市、1事業者	4/21 (1回)
松阪	林業事業者に対し、森林経営計画制度の概要と書類作成方法等について説明を行った。	3事業者	適宜
伊勢	市町と森林組合との共同樹立について検討し、1市で樹立への理解が得られた。	志摩市、度会町、大紀町、南伊勢町、2事業者	11/28 (いせしま地域)、12/2 (大紀地域) (2回)
伊賀	森林経営計画の変更について説明及び作成等について指導を行った。	伊賀市	5/18、2/15 (2回)
	森林経営計画制度の概要説明等を行った。	森林組合主催の地区説明会 (伊賀市内)	7/2、8/20、8/24、9/10、9/30 (5地区70人)
尾鷲	新規作成支援および変更の作成支援を実施した。	紀北町、5事業者	紀北町 (2/21) (1回) 事業者 (10回)
熊野	森林経営計画の変更にあたっての相談対応、変更支援を行った。	2事業者	7/5、2/13 (2回)

(5) 担い手・後継者の育成確保

① 林業教室の開催

森林所有者や林業従事者等を対象として新たな知識・技術を普及するため林業教室を開催した。

テーマ	開催日	開催場所	参加者	内容
みえ出前トーク「きのこはなかなかやるもんだ」	H28. 9. 28	桑名市	30人	林業研究所と共同でシニア向け研修会開催 【四日市】
みえ出前トーク「きのこはなかなかやるもんだ」	H28. 12. 27	鈴鹿市	30人	林業研究所と共同で親子を対象に勉強会としいたけの菌打ち 【四日市】
みえ出前トーク「節足動物由来感染症について」	H28. 8. 25	津市	37人	マダニ等吸血昆虫媒介性感染症について 【津】

「新しいきのこの人工栽培について」 (移動林業研究所)	H28. 10. 2	津市白山 佐田公民館	14人	きのこの有する機能性や、効果など 【津】
伊賀市布引自治協議会 「杣人養成講座」	H28. 9. 17	伊賀市布引 地区市民センター	参加者 4人	簡易な方法による木材搬出についての説明を行った。 【伊賀】
伊賀市布引自治協議会 「杣人養成講座」 (移動林業研究所)	H29. 2. 5	伊賀市(大山 田中央公民館)	会員 28人	移動林業研究所(きのこ研修)と連携した特用林産の普及 【伊賀】
「木材乾燥機の特徴」 (移動林業研究所)	H28. 8. 4	森林組合お わせ	製材業者・林業 関係者 15人	乾燥機の乾燥方法と特徴について 【尾鷲】

② 担い手等に対する育成研修等

林業従事者を対象とした研修会において講師を務めたり、高校生を対象とした林業職場体験研修を開催するなど担い手等に対する育成研修等を行った。

研修等名	対象者	内容等
雇用管理研修会 (6/8、6/16、6/24)	林業事業体 (38事業体、49人)	三重県林業事業体登録・公表制度の普及、担い手関係事業の周知を行った。 【本庁】
農林漁業就業・就職フェア (7/16、2/4)	県内での林業への就職 希望者	(公財)三重県農林水産支援センターが主催する就業・就職フェアに県の林業担当として出席し、来場者に情報提供した。 【本庁】
安全衛生指導員養成研修 (9/12)	林業・製材業等 14人	県の取り組む林材業労働災害防止対策等についての説明 【本庁】
林業死亡労働災害再発防止のための緊急集団指導会 (12/1)	林業事業体等 38事業体、76人	林業死亡労働災害多発警報の発令を受け、林業・木材製造業労働災害防止協会三重県支部との共催で、集団指導会を開催した。 【本庁】
林業労働安全パトロール (12/11、1/17、1/18)	林業事業体 (3事業体)	林業死亡労働災害多発警報発令に伴い、現場巡視を実施した。 【伊勢、尾鷲、伊賀】
林業技能者育成研修 (8/17～18、2日間)	認定林業事業体 (4事業体、5人)	(公財)三重県農林水産支援センターが実施する研修において講師を務めた。 森林の働きと森林・林業・木材産業の現状と課題(山本) 林業用語・林業算術の基礎知識(鎌田) 林業成長産業化を目指した各種取組①(村瀬) 林業成長産業化を目指した各種取組②(中村) 林業成長産業化を目指した各種取組③(本田) 木材の動向と基礎知識(北出) ワークショップ(北出、中村、鎌田、本田、山本) 現地検討(北出、中村、鎌田、山本)
若手現場技能者意見交換会 (9/27)	中勢森林組合2人 松阪飯南森林組合2人 大紀森林組合2人 いせしま森林組合2人	森林組合の現場技能職員を対象に「効率的な高性能林業機械による作業システム」「職員のモチベーションの向上」「林業労働における安全対策」の3テーマでワークショップを開催した。 【津、松阪、伊勢】
高性能林業機械メンテナンス講習会(10/13)	6事業体、15人	プロセッサとフォワーダのメンテナンスについての講習。三重県森林組合連合会に委託して開催。 【本庁、松阪】
「緑の雇用」現場技能者育成対策事業林業作業士(フォレストワーカー)集合研修(12/15)	「緑の雇用」3年目研修生 8事業体、8人	(公財)三重県農林水産支援センターが実施する研修において講師を務めた。 森林作業道・専用道など全般(座学)(山本) 森林作業道の施工事例などに関して(座学・演習)(竹本) 路体強度などに関して(座学)(村瀬) 作設方法などに関して(本田)

「緑の雇用」現場技能者育成対策事業林業作業士(フォレストワーカー) 集合研修 (12/20)	「緑の雇用」3年目研修生 8事業体、8人	(公財)三重県農林水産支援センターが実施する研修において講師を務めた。 森林の区分、望ましい森林の姿、誘導の考え方等について(北原)
高校生林業職場体験研修 (11/13~15、3日間)	四日市中央工業高等学校(2年生、6人)	チェーンソーによる伐倒・造材、高性能林業機械の体験、木工体験など 【四日市】
高校生林業職場体験研修 (8/4)	久居農林高等学校 環境保全コース (2年生、28人)	高性能林業機械の操作体験 グラブプル、プロセッサ、フォワード 【津】
高校生林業職場体験研修 (10/18~20、3日間)	飯南高等学校 (1年生、6人)	間伐作業、林業機械操作体験、菌床椎茸栽培体験 【松阪】
高校生林業職場体験研修 (6/24、9/23、1/20)	南伊勢高等学校 度会校舎 (2年生、6人)	森林・林業関係講話、玉切り体験、森林施業プランナー体験、間伐体験を実施した。 【伊勢】
高校生林業職場体験研修 (8/24~26、3日間)	伊賀白鳳高等学校 (2年生、3人)	三重県の森林・林業の課題、林業現場研修、木材市場見学、伐採作業、伐木搬出作業補助、森林測量・調査補助 【伊賀】
高校生林業職場体験研修 (11/11)	紀南高等学校 (1年生、3人)	伐倒、搬出の現場見学、チェーンソーや高性能林業機械の操作体験、熊野原木市場で搬出された木の見学、製材工場見学 【熊野】

③ 新たな担い手の確保と育成

平成28年度より新たな取り組みとして自伐型林業活動の支援に取り組むこととし、林業普及指導員が中心となって、自伐型林家向けの各種研修を企画・運営した。また、三重県林業人材育成方針の策定と並行して、林業講座「もりびと塾」(林業体験コース・林業リーダー育成コース)を開催した。

研修等名	対象者	内容等
「森の健康診断」講習会 (9/17)	自伐林家等12人	森林を調査し状態を把握する講習会を開催(いなべ市) 【四日市】
「山の棚おろし」講習会 (10/29)	自伐林家等10人	山の価値について調査・評価する講習会を開催(いなべ市) 【四日市】
チェーンソー安全講習会 (12/3)	自伐林家等10人	チェーンソーの安全な操作と伐倒方法について講習会を開催(いなべ市) 【四日市】
坂下地区まちづくり協議会 役員会(1/31)	役員6人	役員6名に対して木の駅プロジェクトの検討会を行った。 【四日市】
自伐型林業伐採基礎研修 第1回:10/8、第2回:10/15	延べ13人	第1回:チェーンソー基本操作、メンテナンス 第2回:間伐、掛かり木処理、搬出 【津】
伐木造材方法及び簡易ウインチ による集材研修(8/23)	自伐林家等23人	販売に有利な採材方法や、ポータブルウインチ等を用いた集材方法についての研修会を開催(松阪市) 【松阪】
間伐搬出実習 (11/13、11/20)	自伐林家等20人	簡易集材機を用いた集材方法についての研修会を開催(大台町) 【松阪】
広葉樹伐採とチェーンソーの メンテナンス体験会(2/18)	自伐林家等9人	チェーンソーのメンテナンスやウバメガシを中心とした伐採に関する体験会を実施した。 【伊勢】
自伐型林業のススメ 講演会&現地研修会 (2/26)	自伐林家等 延べ68人	NPO法人土佐の森・救援隊の中嶋健造理事長を講師に招き、自伐林業を推進する意義や自伐林業に取り組む際のノウハウに関する講演会・現地研修会を実施した。 【全庁】
チェーンソー・刈払機講習会 (11/12)	自伐林家等7人	安全に作業を行うために、チェーンソーや刈払機の安全な使い方の研修を実施した。併せて実際に使用しているチェーンソーや刈払機を持参してもらい、機器に合わせたメンテナンスの方法を学習した。 【熊野】
木の駅プロジェクト基礎勉強会 (10/22)	林研グループ会 員、市職員17人	「木の駅プロジェクト」の仕組みや事例について理解を深め、亀山地域での木の駅実施に向けた検討を進めるための勉強会を実施した。 【四日市】

「間伐・間伐材出荷」体験研修会～「木の駅プロジェクト」出荷作業体験～（12/17）	自伐林家等15人	木の駅 PJ 等の講義、間伐体験（チェーンソーを使った伐倒、造材、枝払い）、木材重量計測体験（トラックスケールを使った搬出木材の重量計測）を実施した。 【伊勢】
林業講座「もりびと塾」 林業体験コース【第1回】 森林・林業の基礎知識（8/6）	受講者 7人	開講式のあと、森林・林業の基礎知識、林業労働安全等の座学 【本庁、津】
林業講座「もりびと塾」 林業体験コース【第2回】 刈り払い機操作体験（8/20）	受講者 8人	下刈りの基礎知識、刈払機の基礎知識・操作実習・点検整備等の実習 【本庁】
林業講座「もりびと塾」 林業体験コース【第3回】 測量体験、木工体験（9/3）	受講者 7人	コンパス測量体験、木材加工体験等 【本庁】
林業講座「もりびと塾」 林業体験コース【第4回】 高性能林業機械操作体験（9/17）	受講者 7人	高性能林業機械等（ハーベスタ、フォワーダ、グラブプル）の操作体験 【本庁】
林業講座「もりびと塾」 林業体験コース【第5回】 植栽体験（10/1）	受講者 6人	苗木植栽・獣害防護チューブの設置等の作業体験 【本庁】
林業講座「もりびと塾」 林業体験コース【第6回】 チェーンソー操作体験（11/5～6、2日間）	受講生延べ12人	チェーンソーの基礎操作体験 イオン株式会社・NPO 法人みやがわ森選組・県の連携する「森つなぎプロジェクト2016」に合流して開催。 【本庁】
林業講座「もりびと塾」 林業体験コース【第7回】 伐採現場・施設見学（12/10）	受講生 7人	皆伐現場とバイオマス発電所施設の視察 森つなぎプロジェクト2016との合同開催 【本庁】
林業講座「もりびと塾」 林業体験コース【第8回】 原木シイタケ栽培体験（1/21）	受講生 5人	シイタケ用原木の玉切り・積み込み作業とシイタケの菌打ち体験 【本庁】
林業講座「もりびと塾」 林業体験コース【第9回】 木の駅プロジェクト（2/18）	受講生 6人	NPO 法人もりずむが主催する「木の駅白山」で、木の駅プロジェクトについて学ぶ 【本庁】
林業講座「もりびと塾」 林業リーダー育成コース【第1回】 持続可能な森林管理（7/26）	受講生 10人	記念講演「持続可能な森林管理とは」 （元）森林総合研究所 藤森 隆郎 氏 【本庁】
林業講座「もりびと塾」 林業リーダー育成コース【第2回】 林業経営（8/26）	受講生 8人	講義：林業経営について 速水林業 速水 亨 氏 【本庁】
林業講座「もりびと塾」 林業リーダー育成コース【第3回】 林業イノベーション（9/9）	受講生 8人	講義：林業イノベーションー新たな技術と人材活用ー 京都大学 長谷川 尚史 准教授 【本庁】
林業講座「もりびと塾」 林業リーダー育成コース【第4回】 起業・ベンチャー（9/30）	受講生 10人	講義：山村での企業・情報発信・都市住民との交流 （株）東京チェーンソーズ 青木 亮輔 氏 【本庁】
林業講座「もりびと塾」 林業リーダー育成コース【第5回】 木材利用・マーケティング（10/28）	受講生 8人	講義：木材利用とマーケティング 野地木材工業（株） 野地 伸卓 氏 【本庁】
林業講座「もりびと塾」 林業リーダー育成コース【第6回】 神宮宮域林の管理（11/11）	受講生 9人	講義：神宮宮域林の管理経営 神宮司庁営林部 山本 祥也 氏 【本庁】
林業講座「もりびと塾」 林業リーダー育成コース【第7回】 農山村・地域づくり（11/25）	受講生 8人	講義：農山村のコミュニティビジネスと地域づくり 岐阜県立森林文化アカデミー 嵯峨 創平 教授 【本庁】

④ 林研グループ等の支援

林研グループ等が行う、児童や生徒等を対象に林業を体験させる活動や森林環境教育などの活動を支援した。この他、活動成果を発表するコンクールへの参加や各林研グループの活動発表会の開催、先進地視察研修などについても支援した。

林 研 名	活動日	活動場所	活 動 内 容
亀山市林業研究会	H28. 10. 22	亀山市加太	会員及び市職員17人に対して木の駅プロジェクト基礎勉強会を開催【四日市】
白山町林業研究会	H28. 5. 13	津市白山町	総会後の研修として自伐型林業に関する研修(28人)【津】
美里林業研究グループ	H28. 7. 21	津市美里町	総会後の研修として、木質バイオマスの燃料供給について研修(10人)【津】
美里林業研究グループ	H28. 11. 1	津市美里町	津市美里町内の小学5年生(30人)に対し、間伐の体験学習を支援【津】
美里林業研究グループ	H28. 11. 16	奈良県吉野町	先進地視察として、「吉野木の駅プロジェクト」及び「吉野林業」の視察研修を支援(15人)【津】
白山町林業研究会	H28. 12. 5	和歌山県みなべ町	地域の自伐林業を支援するみなべ川森林組合の視察研修を支援(19人)【津】
松阪林業研究会	H28. 6. 7～10 (4日間)	松阪市阪内町	中部中学校の2年生9人に対し、間伐や椎茸栽培等の林業体験学習を実施【松阪】
松阪林業研究会	H28. 9. 9	松阪市勢津町	大河内小学校6年生12人に対し、林業体験学習を実施【松阪】
熊野林星会 (親子木工教室)	H28. 8. 28	熊野倶楽部 (熊野市金山町)	熊野市内の小学生を対象に、親子で木工を行う教室を開催した際、森林環境教育を併せて実施(参加者50人)【熊野】
熊野林星会 (木工コンクール)	H28. 9. 10～11 (2日間)	熊野市文化交流センター (熊野市井戸町)	熊野市内の小学生を中心に、木工作品の出品、展示を行った(出品数210点)。その際、森林づくりサポートセンターと連携して「もりぼーる」を会場に設置し、会場を訪れた子どもたちから好評を得た【熊野】
紀宝林業研究会 (ヒメホテルの観察会)	H28. 6. 9	紀宝町北桜杖	紀宝町のみどりの少年隊に対する森林環境教育の一環で実施した、紀宝林研主催のヒメホテルの観察会に同行し支援した。【熊野】
林業女子会@みえ	H29. 1. 24	熊野市内	林業女子会@みえから、熊野地域の森林・林業関係者から話を聞きたいとの相談があり、対応した。(参加者4人)【熊野】
三重県林業研究グループ連絡協議会	H28. 8. 3	津市	久居農林高校2年生を対象としたインターンシップの開催を支援(生徒28人)【津】
三重県林業研究グループ連絡協議会	H28. 8. 30	津市	三重県林業研究グループ連絡協議会通常総会の開催を支援(参加者20人)【全庁】
三重県林業研究グループ連絡協議会	H29. 3. 15	津市	三重県林業研究グループ連絡協議会活動発表会の開催を支援(参加予定者14人)【全庁】

近畿ブロック林業グループコンクール参加に向けた林研グループへの助言指導

熊野林星会が県代表として発表し、最優秀に選ばれた。この結果、近畿ブロック代表として全国林業グループコンクールに参加することとなった。

近畿ブロック	県代表グループ	参加者
林業グループコンクール (8/9：大阪府)	熊野林星会 「熊野生道 どれが熊野の生きる道」	京都、和歌山、兵庫、滋賀、大阪、奈良、三重の7府県 90名(内三重県3人)

全国林業グループコンクール参加に向けた林研グループへの助言指導

熊野林星会が近畿ブロック代表として発表し、林野庁長官賞を受賞した。

	県代表グループ	参加者
全国 林業グループコンクール (2/27～28：東京都)	熊野林星会 「熊野生道 どれが熊野の生きる道」	福島県、栃木県、愛知県、三重県、 山口県、長崎県（6県が発表） その他、1都1道1府31県参加 149名（内三重県3人）

(6) 森林環境教育等

① 森林環境教育等の支援

県民、とりわけ小中学生を中心とした次世代を担う子どもたちに、森林の重要性を普及啓発した。

名 称	参 加 者	内 容
海と山のプチ勉強会（亀山市） (5/14)	親子94人	「海と山をつなぐ交流行事」にて親子を対象のクイズ形式の勉強会 【四日市】
出前授業「木育講座」（桑名市） (6/21)	小学生の親子92人	桑名市立長島中部小学校のPTA行事で木育体験及び講演会を開催 【四日市】
木のおもちゃで遊んで・作って・学ぼう（川越町）（8/19）	親子150人	出前授業として児童館で親子を対象に木育講座を開催 【四日市】
木のおもちゃで遊んで・作って・学ぼう（桑名市）（8/23）	小学生及び指導員23人	放課後学童クラブレインボー駅前にて木育体験及び木育教室を開催 【四日市】
木のおもちゃで遊んで・作って・学ぼう（桑名市）（8/30）	小学生の親子及び保育園児74人	長島中部学童保育所レインボーにて小学生親子と長島保育園園児を対象に木育体験及び木育教室を開催 【四日市】
みえ森づくりサポートセンター 出前授業（7/8）	津市立修成小学校 生徒、保護者等 129人	津市立修成小学校において、森林のお話や、木のおもちゃ、丸太切りなどの体験活動支援 【津】
みえ森づくりサポートセンター 出前授業（9/15）	津市立北立誠小学 校生徒、保護者等 182人	津市立北立誠小学校において、森林のお話や、木のおもちゃ、丸太切りなどの体験活動支援 【津】
森林教室（6/17）	5、6年生 22人	伊勢市立今一色小学校の生徒を対象に、みどり共生推進班とマツノサイセンチュウによる松枯れのメカニズム、松枯れ対策の講義や海岸林の草抜き活動を実施した。 【伊勢】
ヤマボウシの植樹活動（2/3）	1、2年生 8人	伊勢市主催の市立宮川中学校の生徒によるヤマボウシの植樹活動を支援した。 【伊勢】
マツの間伐体験等（2/7）	4年生 13人	伊勢市立今一色小学校の生徒を対象にマツの話や間伐体験を実施した。 【伊勢】
尾鷲ヒノキ製学習機の天板の交換作業（9/6）	尾鷲市立宮之上小 学校の1年生、19人	尾鷲市立宮之上小学校の1年生が、尾鷲ヒノキを使用した木製の学習機の天板の交換作業をするのを支援した。 【尾鷲】
林業の体験遠足（3/11）	熊野市内の小 小学生 18人、保護者3人	商工会議所主催の体験学習である林業遠足の開催に際し、間伐体験の支援及び森林環境学習の支援を行った。 【熊野】

② 森林関係イベント開催支援

広く県民を対象としたイベントに出展するなどして、森林や木との触れ合いの機会を提供し、森林の重要性を普及啓発した。

イベント名	開催日	開催場所	概要	参加者
ミエトイキャラバンin東員	H28. 7. 30 ～8. 7	東員町	木製玩具の体験や木工体験、パネル展示を実施(みどり共生推進課、森林協会、民間木工作家と共同開催) 【四日市】	約3,000人
2016年度商品・くらしの活動交流会	H28. 9. 29	津市	県産材利用についてPR活動に併せてアンケート調査を実施した。 【津】	アンケート 164人
森の学校	H28. 11. 5	津市	津市農林水産祭において、ドングリのクラフト体験(森のせんせい活動支援) 【津】	36人
林業研究所一般公開	H28. 12. 10	津市	林業研究所の一般公開の支援。研究施設見学、キノコの菌打ち体験など 【津】	100人
第4回みえこどもの城 キッズおしごと広場 (松阪飯南森林組合と共同で出展)	H28. 7. 3	松阪市	「きこり体験」として子どもを対象にノコギリによる丸太切りと工作体験【松阪、本庁】	100人
第16回農大祭	H28. 12. 4	松阪市	「きこり体験」としても子どもを中心とした丸太切り体験を実施 【松阪、伊賀、本庁】	45人
森の学校 (上野森林公園森の音楽会と共同)	H28. 10. 10	伊賀市	木工作業の体験、自然観察会を支援した。 【伊賀】	96人
森の学校	H28. 11. 13	尾鷲市	尾鷲ひのきふれあいフェスタにて「森の学校～森のせんせいに学ぼう～」を支援した。 【尾鷲】	市民等 85人(工作68人、自然散策17人)
第29回農山漁村のつどい	H29. 2. 8	津市	林業関係出演者との連絡調整等による開催支援 【本庁】	出演者1人
第2回みえチェーンソー技術競技大会	H28. 7. 16	津市	みえチェーンソー技術競技大会の安全指導 【全庁】	選手21人

③ 多様な主体が行う森林作業の支援・技術指導

企業の従業員など森林ボランティアなど多様な主体が行う森林整備活動に対して、活動支援や技術指導等を行った。

企業・団体名	活動日	活動場所	活動内容	参加者
企業の森 かめやま会故の森 (シャープ他8社)	H28. 5. 16 H28. 10. 5	亀山市	かめやま会故の森環境整備協議会事務局として協議会に出席	23人 22人
企業の森 AGFグループ	H28. 6. 18	亀山市	企業の森活動(森林整備及び歩道整備)の支援	90人
企業の森 本田技研工業(株) (予定)	H28. 10. 31 H29. 1. 11 H29. 3. 28(調印式)	鈴鹿市	企業の森活動にかかる協定・調印式にかかる支援(新規)	2人 4人
企業の森 かめやま会故の森 (シャープ他8社)	H28. 11. 13	亀山市	企業の森活動(林内整備、歩道整備、しいたけの菌打ち体験)の支援	153人
企業の森 トヨタ車体(株)いなべ工場	H28. 11. 29	いなべ市	企業の森活動(除伐)の支援	16人

企業の森 楽天(株)	H28. 12. 9	菰野町	本社担当者 現地案内	3人
企業の森 NTN(株)桑名製作所	H28. 3. 18 (予定)	桑名市	企業の森活動(植林及び歩道整備)の支援	50人
企業の森 トヨタ車体(株)いなべ工場	H28. 3. 19 (予定)	いなべ市	企業の森活動(植樹・木工教室・きのこ菌打ち)の支援	90人
企業の森 AGFグループ	H28. 3. 25 (予定)	亀山市	企業の森活動(森林整備及び歩道整備)の支援	90人
企業の森 (株)百五銀行	H28. 4. 15	津市	「百五の森・芸濃」において植樹活動	新入社員92人
企業の森 生活協同組合コープみえ	H28. 6. 19	津市	「コープみえの森」において下刈り活動	110人
企業の森 損保ジャパン日本興亜(株)	H28. 10. 1	津市	「損保ジャパン日本興亜ふれあいの森」において、下草刈り、記念植樹活動	56人
企業の森 清水建設(株)	H28. 4. 10	松阪市	広葉樹林の整備	社員と家族 60人
企業の森 シャープ(株)三重工場	H28. 5. 14	多気町	広葉樹林の整備	社員と家族 50人
企業の森 清水建設(株)	H28. 5. 29	松阪市	広葉樹の整備、ほか	社員と家族 60人
企業の森 住友理工(株)	H28. 6. 12	松阪市	竹林伐採	社員と家族 50人
企業の森 清水建設(株)	H28. 9. 25	松阪市	広葉樹林の整備	社員と家族 40人
企業の森 東邦ガス(株)	H28. 10. 15	大台町	広葉樹の植栽	社員と家族 25人
企業の森 シャープ(株)三重工場	H28. 10. 22	多気町	広葉樹林の整備、丸太切り体験	社員と家族 60人
企業の森 住友理工(株)	H28. 10. 23	松阪市	間伐	社員と家族 80人
企業の森 清水建設(株)	H28. 10. 30	松阪市	広葉樹林の整備	社員と家族 50人
企業の森 エレコム(株)	H28. 4. 9	志摩市	マツ等の植樹指導	社員 40人
企業の森 横浜ゴム(株)	H29. 3. 8	大紀町	間伐等の指導	社員 42人
企業の森 (株)LIXIL	H28. 5. 28	伊賀市	植栽、パッチディフェンスの設置等の支援	社員他 100人
企業の森 (株)LIXIL	H28. 10. 22	伊賀市	間伐、パッチディフェンスの設置等の支援	社員他 102人
企業の森 三重中央開発(株)	H28. 5. 8	伊賀市	森林整備等の支援	社員他 150人
企業の森 三重中央開発(株)	H28. 11. 6	伊賀市	森林整備等の支援	社員他 135人
企業の森 北越紀州製紙(株)	H28. 11. 26	紀宝町 鵜殿	森林内に侵入した竹の伐採	北越紀州製紙社員、紀宝町役場職員 計19人

(7) その他の活動

①. 林業普及指導職員近畿ブロックシンポジウムでの発表

平成 28 年 9 月 8 日に兵庫県で開催された平成 28 年度林業普及指導職員近畿ブロックシンポジウムにおいて津農林水産事務所森林・林業室の竹本普及員が「地域林業の担い手育成支援～新規就業と自伐型林業への支援～」と題して活動事例を発表し、優秀賞を受賞した。

②. 各種調査の実施

林業普及指導員がそのネットワークを活用しながら、各種調査を行いました。

調査名	調査依頼者	時期 (回答)
林業機械保有状況調査	林野庁	H28. 12
素材生産費調査	林野庁	H28. 8
乾燥材出荷実態調査	林野庁	H28. 12
特用林産物調査	林野庁	H29. 2
林業就業者定着状況及び新規就業者状況調査	林野庁	H29. 4
公共建物建設計画及び実績調査	県独自	H29. 4

③. 第 2 回みえチェーンソー技術競技大会の開催支援

みえチェーンソー技術競技大会実行委員会が競技大会を開催するに当たって、競技ルールの制定など大会が円滑に運営されるよう支援したほか、林業普及指導員が、競技大会当日の審判員を務めた。

大会は、平成 28 年 7 月 16 日 (土) にメッセウィングみえにて「『三重の木』でつくる暮らし展 2016」と併せて開催され、7 チーム (21 名) が出場した。競技の結果、三重くまの森林組合チームが優勝した。

④. 森林総合監理士等 (准フォレスター含む) 活動

国においては、平成 23 年度から平成 25 年度まで「准フォレスター」の育成研修を実施し、研修修了者を「准フォレスター」とするとともに、平成 25 年度からは林業普及指導員資格試験を「林業一般」と「地域森林総合監理」の 2 区分に再構築し、「地域森林総合監理」区分に合格した者を「森林総合監理士」として登録・公開する制度を平成 26 年度からスタートさせた。また、平成 27 年 3 月には林業普及指導運営方針の一部を改正し、森林総合監理士の業務を新たに位置付けたところである。

本県でも、このような国の動きに対応して、林業普及指導員を国主催の研修に参加させて准フォレスターを育成するとともに、林業普及指導員資格試験 (地域森林総合監理区分) に合格した森林総合監理士が誕生している。また、県では、国の林業普及指導運営方針の一部改正を受けて、平成 27 年 4 月に三重県林業普及指導実施方針の一部改正し、この中で森林総合監理士の業務を

【1】地域の森林の整備・保全や林業の活性化に向けた構想の策定への協力

【2】地域の森林の整備・保全等の構想の実現に必要な活動の展開

ア 面的なまとまりのある森林経営の推進

イ 適切な森林施業の確保

ウ 森林・林業に関する技術・知識の普及・指導

エ 木材の安定供給体制の確立等

と定め、これらの業務を地域で実施するため森林総合監理士や准フォレスターを林業普及指導員として配置することとした。なお、これらの業務は従来の林業普及指導員の活動と密接に関係しており、一体不可分であることから、今回の活動報告書においては、特記することをせず、該当する活動に下線表示することとした。

② . 「三重の林業」の記事収集

「三重の林業」は、三重県林業技術普及協会、(一社) 三重県森林協会、三重県森林組合連合会、三重県木材組合連合会が共同発行 (年 6 回) し、その編集を三重の林業編集委員会が行っている。林業普及指導員はこの編集委員会で編集委員を務めており、三重の林業に掲載する記事の収集を行っている。

平成 28 年 10 月 4 日には「三重の林業」編集委員会が開催され、林業普及指導員が参加した。

⑥. 普及活動の情報発信

普及員が普及活動を通じて得た情報を県職員内で共有し、各種業務に役立てていただくことを目的として平成 28 年度より庁内メールによる「普及情報」の発信に取り組み始めた（普及情報メール：111 回）。また、県のホームページを活用して、普及情報の発信にも努めた（県ホームページ掲載：78 回）。

⑦. 林業普及指導員等の資質向上

ア. 林業普及指導員企画会議の開催

林業普及指導員相互の情報共有と研修を兼ねた企画会議を開催した。（10 回開催）

回数	日程	研修内容	講師
第 1 回	4/15	年間の普及活動協議、本庁各課との連携について	—
第 2 回	5/9	森林経営計画作成・認定実務について	森林計画班 小倉主査
第 3 回	6/6	主伐・再造林一貫作業システム	林業研究所 野村主査研究員
第 4 回	6/20	平成 28 年度林業研究所業務報告会	林業研究所 各研究員
第 5 回	8/8	チェーンソー伐木造材技術研修の伝達研修	村瀬普及員、山本普及員
第 6 回	8/24	造林地における獣害対策	林業研究所 福本主幹研究員
第 7 回	10/4	集材架線研修の伝達研修	本田普及員
第 8 回	12/22	高性能林業機械（安全指導・前期）2 研修の伝達研修	中村普及員
第 9 回	1/16	研修企画運営実務（先進事例学習）研修の伝達研修	北川普及員
第 10 回	3/6	高性能林業機械（安全指導・後期）研修の伝達研修 研修企画運営実務研修の伝達研修 特用林産研修の伝達研修	中村普及員 竹本普及員 鎌田普及員

イ. 林業普及指導員スキルアップ研修の開催

林業普及指導員の技術・知識を高めることを目的として研修を開催し、林業普及指導員等延べ 49 人が参加した。（4 回開催）

回数	日程	研修内容	講師
第 1 回	7/28 ～29	目標林型と森林施業を考える 講義・調査実習・班別演習・プレゼンテーション	三重大学 沼本准教授 三重大学演習林 技術員 林業研究所 島田主幹研究員
第 2 回	9/30	提案型集約化施業を考える 講義・現地見学	松阪飯南森林組合 認定森林施業プランナー 集約課 辻課長補佐、渡辺氏
第 3 回	10/28	製材工場の経営戦略 講義・現地見学	野地木材工業(株) 野地専務理事
第 4 回	11/11	神宮林の管理経営と森林施業 講義・現地見学	神宮司廳営林部 山本氏

ウ. 各地域機関における職員資質向上の取り組み

- 四日市農林事務所の本田普及員が、職員を対象とした森林密度管理に係る現地研修会を開催した。（11/24、県職員 10 人参加）
- 津農林水産事務所の竹本普及員が、事務所職員を対象とした自主勉強会で「未利用間伐材利用促進に向けた取組」の研修を行った。（9/28、県職員 11 人参加）
- 松阪農林事務所の北出普及員が、管内で先進的に皆伐施業と直送販売に取り組む事業者の協力を得て「皆伐現地研修会」を開催した。（11/24、県職員 11 人参加）
- 熊野農林事務所の山本普及員が、職員を対象とした原木市場（記念市）の見学会を開催した。（10/21、県職員 16 人参加）

⑧．林業事業体改善計画の作成支援

林業労働力の確保の促進に関する法律に基づいて事業主が「労働環境の改善、募集方法の改善その他の雇用管理の改善及び森林施業の機械化その他の事業の合理化を一体的に図るために必要な措置についての計画（林業事業体改善計画）を作成するにあたっての支援を行った。

この結果、20 事業体が継続して改善計画の認定を受けることとなったほか、新規に 2 事業体が改善計画の認定を受け、雇用管理の改善や事業の合理化に取り組むこととなった。

事務所	事業体数					左のうち新規件数				
	6月	9月	12月	2月	計	6月	9月	12月	2月	計
四日市	0	0	2	1	3	0	0	0	0	0
津	1	0	0	2	3	0	0	0	0	0
松阪	2	0	3	1	6	1	0	0	0	1
伊勢	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0
伊賀	0	1	3	0	4	0	1	0	0	1
尾鷲	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
熊野	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0
計	3	6	8	5	22	1	1	0	0	2

⑨．平成 28 年度の林業普及指導体制

三重県では、平成 17 年度から林業普及指導員の専任制を採用している。平成 28 年度は、専任普及員が 9 人（本庁 2 人・地域機関 7 人）、兼務普及員が 13 人の合計 22 人で活動した。

所 属		課名・班名	名 前	備 考
本 庁	農林水産部森林・林業経営課	林業普及班	宮崎 恵一	班長
			北川 雅義	専任
			北原 善彦	専任
地 域 機 関	四日市農林事務所森林・林業室	林業振興課	本田 美香	専任
			秦 広志	兼務
	津農林水産事務所森林・林業室	林業振興課	竹本 達男	専任
			辻内 和代	兼務
	松阪農林事務所森林・林業室	林業振興課	北出 満	専任
			中村 好範	兼務
	伊勢農林水産事務所森林・林業室	林業振興課	鎌田 康宏	専任
			杉野 成生	兼務・課長
	伊賀農林事務所森林・林業室	林業振興課	中村 有介	専任
			瀧尻 富士雄	兼務・課長
	尾鷲農林水産事務所森林・林業室	林業振興課	村瀬 道明	専任
			東 基樹	兼務
	熊野農林事務所森林・林業室	林業振興課	山本 和史	専任
			高村 順	兼務・課長
	林業研究所	林産研究課	西井 孝文	兼務
山吉 栄作			兼務	
福本 浩士			兼務	
島田 博匡			兼務	
奥田 清貴			兼務	
	森林環境研究課	野村 久子	兼務	